

随

想

山を楽しむ

登山が近年多くの人に愛されている。アルプスや富士山では山開き前から山小屋が予約で満室になるときく。バブルの頃、一時登山は若者から見向きもされず、たまに大学生が山にいと、幕営地でベテラン登山者から食料などを分けていただけることもしばしばであったことが懐かしい。

ところが、今や登山は若者のスポーツに返り咲き、ファッショナブルなウェアと機能的なギアに身を包んだ登山者で、山は賑わいを取り戻している。国内は勿論、海外からも多くの登山者が日本の山々に惹かれ、山行を楽しんでいる昨今である。大正以来続く本校の伝統行事である夏山登山も、今年は多数の応募者があり、4年ぶりに泊まりがけで登山を楽しんだときく。生徒たちは、硫黄が香る温泉で体を癒しつつ、古代より崇敬が続く霊峰立山での荘厳な自然を体感したことであろう。

しかしながら、汗水垂らして山に登らなくとも愛知淑徳中高のある桜が丘キャンパスからは、東に中央アルプスや御嶽山、西には鈴鹿の山なみが望め、名古屋市内屈指の眺望が楽しめる。よく晴れた冬の日の夕方

には、モルゲンロートで赤く染まった美しき峰々が、5階の渡り廊下や図書館から遠く見渡すことが出来るのだ。感受性豊かな時を過ごす子どもたちにとつて、誠に好ましい環境だと言えよう。生徒たちにこのような自然の美しさを感じてもらえる学舎は、日本広しといえども、大都会ではそうそうあるものではないだろう。

今、平和公園の豊かな緑に包まれ、小鳥の囀りに溢れる校舎で、長いコロナ禍を乗り越え多くの行事が再開されている。私たちの学園は元の賑わいを取り戻しつつある。辛く厳しい時が長く続いたからこそ、四季の移ろいを感じ自然に敬意を払うことが出来るのではないだろうか。生徒の個性を伸ばし人格を形成する営みに携われることに、喜びを噛み締めている。今日この頃である。

